

厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業))
「社会構造の変化を反映し医療・介護分野の施策立案に効果的に活用し得る国際統計分類の開発
に関する研究」

分担研究報告書 (令和元年度)

日本語版 ICD-11 構築に向けた日本語化について

研究分担者 滝澤雅美 国際医療福祉大学

研究要旨

ICD-11 は、2018 年 6 月に公表され、2019 年 5 月の世界保健総会 (World Health Assembly: WHA) にて承認され、各国でその導入に向けた準備が進められている。ICD-11 をわが国で適用する際には、英語で作成された ICD-11 の日本語への翻訳と、わが国で用いられている医学用語との整合性の確保が必要となる。本研究は、2019 年度に厚生労働省を中心として実施した ICD-11 の日本語への翻訳作業において、本研究班として担当した新規項目の翻訳と全体の取りまとめについて概観する。また、全体取りまとめの一環として、厚生労働省で実施した作業のうち、2 章、4 章、20 章における翻訳作業を事例として取り上げ、ICD-10、ICD-O-3、日本医学会医学用語辞典などを用いて日本語化に向けた検討と導入に向けた課題を明らかにした。

A. 研究目的

疾病及び関連保健問題の国際統計分類 (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems、以下 ICD) の第 10 版である ICD-10 は、わが国において人口動態統計や患者調査、診断群分類包括支払制度 (DPC/PDPS: Diagnosis Procedure Combination/Per-Diem Payment System) など幅広く活用されている。ICD の第 9 版である ICD-9 まではおよそ 10 年おきに改訂されていたが、現在用いられている ICD-10 は約 30 年改訂されていなかった。そのため、ICD-11 の改訂に向けた議論が 2007 年度に開始され、2018 年 6 月に公表、2019 年 5 月の世界保健総会 (World Health Assembly: WHA) にて承認され、各国では ICD-11 導入に向けた準備が進められている。

わが国においては、厚生労働省国際分類情報管理室が中心となり、ICD-11 のわが国への

導入に向けた各種作業を実施している。その一つが英語で構築された ICD-11 の日本語化であり、この翻訳作業についても関連学会の協力のもとで厚生労働省国際分類情報管理室が中心となって実施しており、本研究班も具体的な作業に参加した。

本年度の ICD-11 翻訳作業は、1) 厚生労働省が中心となり、関連学会からの意見集約と日本語訳候補の選定作業、2) ICD-11 への新規追加項目に対する日本語訳案の作成、の 2 種類から構成されており、本研究班として 2) を担当することになった。さらに、本研究班で ICD-11 翻訳作業のための web ベースのプラットフォームの構築を行い、ICD-11 翻訳作業全般で活用されて大きな成果をあげたほか、本年度 ICD-11 翻訳作業全体の取りまとめを実施するなど、ICD-11 翻訳作業全般にわたり深く関与した。

本研究は、本年度実施された ICD-11 の日本語化の翻訳作業について概観したうえで、本

研究班として実施した作業について取りまとめ、そのうえで ICD-11 のわが国への導入に向けた課題を明らかにすることを目的として実施した。

B. 研究方法

本研究は、(1) ICD-11 翻訳のための web ベースの作業用プラットフォームの構築、
 (2) ICD-11 への新規追加項目に対する日本語訳案の作成、(3) ICD-11 翻訳作業全体の取りまとめと ICD-11 のわが国への導入に向けた課題の検討、の 3 項目より構成されている。

(1) ICD-11 翻訳のための web ベースの作業用プラットフォームの構築

本研究班において、研究年度を通じて構築し活用されている web ベースの ICD-10 検索ツールを改訂することで、ICD-11 翻訳作業を効率的に実施するための web ベースの作業用プラットフォームを構築した。

(2) ICD-11 への新規追加項目に対する日本語訳案の作成

本研究班で組織した専門家 5 名により ICD-11 各項目の日本語訳案の作成を行なった。日本語訳案の作成にあたり、上記の本研究班で構築した作業用プラットフォームを用いて実施した。

(3) ICD-11 翻訳作業全体の取りまとめと ICD-11 のわが国への導入に向けた課題の検討

本研究の一環として、本年度実施した ICD-11 翻訳作業全体の調整と取りまとめを実施した。具体的には、作業者の質問事項や各種の指摘事項について取りまとめを実施したほか、英語から日本語への翻訳作業において、定型的に用いた用語を「定型訳」として取りまとめた。

さらに、翻訳作業の内容について、ICD-11 の 2 章、4 章、20 章における翻訳作業をケースとして取り上げ、具体的な翻訳作業から ICD-11 の日本語化とわが国における ICD-11 実用化に向けた課題について考察し、わが国に適した ICD-11 構築に向けた検討を行った。

(倫理面への配慮)

本研究においては、倫理面への配慮は必要としない。

C. 研究結果

(1) ICD-11 翻訳のための web ベースの作業用プラットフォームの構築

本研究班において、web ベースの作業用プラットフォームを構築した(図 1 参照)。作業用プラットフォームは、作業項目が一覧で把握できるほか、作業結果の入力を可能とするものであり、さらに各学会からの翻訳候補の一覧を提示し、円滑な翻訳作業を可能とした。また、定型訳の一覧表示とアップデート機能に加えて、事務局との質疑応答の機能を付加したほか、翻訳に必要な日本医学会医学用語辞典や ICD-11 ブラウザなどのリンクを付加し、効率的な翻訳作業を可能とした。さらに、web ベースとすることで、作業者は常にアップデートした内容を把握できるほか、複数の作業者が同時にアクセスできるようにした。詳細は今井報告を参照されたい。

図 1 ICD-11 翻訳のための web ベースの作業用プラットフォーム

ICD-11	訳案	訳案	訳案	訳案	訳案
2A00.00	Neoplasm	腫瘍	腫瘍		
2A00.01	Benign neoplasm of brain or meninges	脳内良性腫瘍	脳内良性腫瘍		
2A00.02	Primary neoplasm of brain	脳内原発性腫瘍	脳内原発性腫瘍		
2A00.03	Malignant brain tumour	悪性脳腫瘍	悪性脳腫瘍		
2A00.04	Metastatic neoplasm of brain	脳内転移性腫瘍	脳内転移性腫瘍		
2A00.05	Gliomas of brain	脳内グリア腫瘍	脳内グリア腫瘍		
2A00.06	glioma NOS	グリア腫瘍 NOS	グリア腫瘍 NOS		
2A00.07	Glioblastoma of brain	脳内星細胞腫	脳内星細胞腫		
2A00.08	glioblastoma NOS	星細胞腫 NOS	星細胞腫 NOS		
2A00.09	apoptoblastoma of unspecified s.	脳内不明細胞腫瘍	脳内不明細胞腫瘍		
2A00.10	protona prior apoptoblastoma	脳内不明細胞腫瘍(前)	脳内不明細胞腫瘍(前)		
2A00.11	apoptoblastoma polym of unspecified s.	脳内不明細胞腫瘍(多発性)	脳内不明細胞腫瘍(多発性)		
2A00.12	apoptoblastoma multiforme of u.	脳内不明細胞腫瘍(多形性)	脳内不明細胞腫瘍(多形性)		
2A00.13	microcystic sarcoma of unspecified s.	脳内微小嚢腫瘍	脳内微小嚢腫瘍		
2A00.14	Gliosarcoma of brain	脳内グリオサーマ	脳内グリオサーマ		
2A00.15	gliosarcoma with sarcomatous s.	脳内グリオサーマ(肉腫性)	脳内グリオサーマ(肉腫性)		
2A00.16	Anaplastic astrocytoma of brain	脳内悪性星細胞腫	脳内悪性星細胞腫		
2A00.17	Oligodendroglioma	脳内オリゴデンドログリア腫瘍	脳内オリゴデンドログリア腫瘍		
2A00.18	Anaplastic oligodendroglioma of brain	脳内悪性オリゴデンドログリア腫瘍	脳内悪性オリゴデンドログリア腫瘍		
2A00.19	ependymoma	脳内ependymoma	脳内ependymoma		
2A00.20	anaplastic ependymoma of unspecified s.	脳内悪性ependymoma	脳内悪性ependymoma		
2A00.21	Low-grade ependymoma	低悪性ependymoma	低悪性ependymoma		
2A00.22	High-grade ependymoma	高悪性ependymoma	高悪性ependymoma		
2A00.23	myoepithelial ependymoma of u.	脳内悪性上皮性ependymoma	脳内悪性上皮性ependymoma		
2A00.24	Subependymoma of brain	脳内下皮腫瘍	脳内下皮腫瘍		

(2) ICD-11 への新規追加項目に対する日本語訳案の作成

本研究で実施した翻訳作業は、ICD-11 への新規追加項目に対するものであり、その翻訳対象の件数は 11,574 件であった。これらの対象項目の翻訳作業にあたり、研究協力者の専門家 5 名により翻訳作業を実施し、本研究班・分担研究者の小川と滝澤が取りまとめを実施した。なお、5 名の研究協力者と担当の章、項目数は表 1 の通りである。

表 1 ICD-11 への新規追加項目に対する日本語訳の作業担当

担当者	担当章	項目数
A	1,2章	2,462件
B	3~14章	2,014件
C	15~21章	2,150件
D	22~26章、V章	1,498件
E	X章	3,448件
合計		11,572件

この翻訳作業の実施にあたり、本研究班で構築した作業用プラットフォームを用いて実施した。

この翻訳作業の結果の一部を、本稿の参考資料 1 として提示した（第 1 章の新規追加項目の英語と日本語訳案の一部）。

(3) ICD-11 翻訳作業全体の取りまとめと ICD-11 のわが国への導入に向けた課題の検討

本研究班として、翻訳作業全体の調整と取りまとめを行い、作業者の質問や各種の指摘事項の取りまとめを実施した。

作業者からの質問や指摘事項については、本研究班で構築した作業用プラットフォームの一部に実装した。翻訳作業全体を通じて、22 項目の質問が寄せられ、厚労省 ICD 室より回答された。具体的な質問事項としては、体裁や表記の統一に関するものと翻訳内容に関するものがほとんどであり、また作業用プ

ラットフォームや定型訳に関する利用方法に関するコメントなども寄せられた。

ICD-11 翻訳作業を実施するにあたり、英語から日本語への定型的な用語として、例えば「and」は「及び」、「or」は「又は」とするといったルールを「定型訳」として取りまとめた。詳細は本稿参考資料 2 を参照されたい。

次に、翻訳作業の内容について、ICD-11 の 2 章、4 章、20 章における翻訳作業をケースとして取り上げ、その日本語化に向けた作業を俯瞰した。

1) 分析対象 3 章における項目数

分析対象 3 章における ICD-11 の項目数とブロック、分類項目、索引用語は表 2 のとおりである。なお、ブロックは分類項目のグルーピングにおける概念を表し、分類項目は疾患を分類する項目であり、索引用語は当該項目に分類される用語を指している。

表 2 3 つの章における件数

	2 章	4 章	20 章
ブロック	43 件	7 件	30 件
分類項目	846 件	172 件	884 件
索引用語	4,817 件	1,091 件	6,688 件

2) 第 2 章：新生物の疾患

第 2 章：新生物の疾患は、ICD-10 から ICD-11 への改訂に伴い、部位別の分類から組織形態の分類へと変更となり、また ICD-10 と ICD-O-3 を統合させた分類体系への変更されている。そのため、ICD-10 及び ICD-O-3 の両者の分類を踏まえて和訳することが必要である。この考え方に基づいて、ICD-10 及び ICD-O-3 両者で用いられている「overlapping lesion of」及び「ill-defined site」「secondary」などの定型訳について検討を実施した。

「overlapping lesion of」は ICD-10 及び ICD-O-3 両者で「境界部病巣」と訳され、ICD-11

においても「境界部病巣」と訳すこととなった。

「ill-defined site」は、ICD-10 及び ICD-O-3 のいずれも「部位不明確」、「不明確な部位」となっていたが、ICD-11 では「診断名不明確」、「部位不明確」、「不明確な部位」などの候補が考えられ、今後の検討事項となった。

「secondary」は、secondary malignant neoplasm、secondary malignant tumour、secondary cancer、secondary tumour 等があり、ICD-10 及び ICD-O-3 では「続発性」と訳されていたが、各学会からの意見には「二次性」と訳されている項目が見られたため、今後の検討事項となった。

定型訳以外の翻訳に関する検討事項としては、「卵管」の英語として「fallopian tube」と「oviduct」の両方が用いられるが、「fallopian tube」は ICD-10 及び ICD-O-3 においては「卵管」、医学用語辞典では「ファロピー管」と訳されていた。ICD-11 では「fallopian tube」は「ファロピー管」、「oviduct」は「卵管」と訳すことになった。

また、「omentum」は ICD-10 及び ICD-O-3 においては「大網」と訳されていたが医学用語辞典では「網」と訳されていた。ICD-11 では、lesser omentum（小網）と greater omentum（大網）を包括する用語として、「omentum」は「網」を意味していると考えられたが、ICD-11 には大小の区別はないのが現状である。そのため、「omentum」を「大網」と訳すとより限定的になってしまうと考えられたが、学会からの翻訳案では「大網」との意見であったため、今後の検討事項となった。

3) 第 4 章：免疫系の疾患

免疫系の疾患は、ICD-10 において血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害の章に含まれ、3 桁分類は D80「主として抗体欠乏を伴う免疫不全症」、D81「複合免疫不全症」、

D82「その他の大きな欠損に関連する免疫不全症」、D83「分類不能型免疫不全症」、D84「その他の免疫不全症」、D86「サルコイドーシス」、D89「その他の免疫機構の障害、他に分類されないもの」の D80～D89 の 7 項目であった。

ICD-11 では、免疫系の疾患は単独の章として位置づけられ、172 件の分類項目が設けられている。この中には、ICD-10 では免疫機構の障害の分類から除外されていた自己免疫疾患や多核好中球機能障害の分類が含まれ、シェーグレン症候群やベーチェット病、細胞膜レセプター複合体欠損症などが含まれることになった。また、ICD-11 の索引項目には

「with」「を伴う」や「or」「又は」、「in」「における」などの定型訳が用いられる項目も多く見られた。例えば、「結節性紅斑を伴う急性サルコイドーシス」や「結節性又はプラークサルコイドーシス」、「肺におけるサルコイドーシス」などが存在していた。

4) 第 20 章：発達異常

ICD-11 における第 20 章：発達異常は、ICD-10 の第 17 章：先天奇形、変形及び染色体異常にあたる分類である。この章の日本語訳は、日本医学会用語委員会より報告されているとおり、奇形を含む医学用語の置き換え提案に準じて翻訳する必要があると考えられた。例えば「anomaly」は、「先天異常」、「先天性〇〇異常」、「異常」、「deformity」は「変形」、「malformation」は「形成異常」と訳される。そのほかにも「Teratoma」は ICD-10 では「奇形腫」であったが、置き換えにより「テラトーマ」となることや、「(人名) 奇形」は「(人名) 病」(例：Arnold-Chiar 奇形→Arnold-Chiari 病) と訳される。

また、発達異常の章における循環器系の日本語訳は型による分類などがあり、分類に応じた日本語訳が必要であった。例えば、ICD-

10において「心室中隔欠損症」はQ21.0の1つの分類であったが、ICD-11では「心室中隔欠損症」、「肉柱筋性部心室中隔欠損症」、「中心膜性部心室中隔欠損症」、「血行動態的に問題のない心室中隔欠損症」の4つの分類項目が設けられ、索引項目は123項目存在していた。

D. 考察

ICD-11の2019年5月の世界保健総会での承認により、各国でICD-11導入に向けた各種準備が実施されている。わが国では、英語で構築されたICD-11の日本語化が必須であり、本年度は厚生労働省を中心にICD-11の日本語化が実施され、本研究班としてもこの作業に参加した。

ICD-11日本語化作業は、単純に英語を日本語に翻訳するだけでなく、わが国で通常用いられている医学用語との整合性を取る必要があり、また臨床上・学術上で使用可能なものとする必要もある。そのため、厚生労働省は日本医学会医学用語辞典やICD-10日本語版などを用い、また関連学会に日本語訳案の作成を依頼するなど、多角的な視点から日本語訳案の取りまとめを実施した。本研究班はこの作業の作業用プラットフォームの構築と取りまとめに参加し、さらに新規追加項目への翻訳作業を実施し、ICD-11の翻訳作業への大きな貢献を果たしたと考えられる。

また、本研究においてICD-11翻訳作業について分析を実施し、分析対象の3つの章における定型訳の抽出及び日本語化について分析を行った。

第2章「新生物の疾患」においては、ICD-10及びICD-O-3の分類を踏まえて和訳する必要があるが、用語の使い分けなどを踏まえながら、和訳する必要があった。また、第2章では分類体系が部位から組織形態へと移行されたため、ICD-11導入時には、病名登録を行

う医師や診療情報管理士への周知が必要と考える。

第4章「免疫系の疾患」では、これまでは「〇〇性△△」などの表現が多く使用されていたが、索引項目には「〇〇を伴う△△」や「〇〇又は△△」、「〇〇における△△」などの表現がされていたため、わが国において傷病名として使用する際には、それらの表現を踏まえた傷病名の採用の可否について検討する必要があると考えられる。

第20章「発達異常」では、医学用語の日本語訳の置き換え提案に従って日本語訳を作成する必要があることが判明した。この結果として、ICD-10をDPC/PDPS等で使用している診療情報管理士など医療現場で働く実務担当者は、奇形などICD-10の病名を常時見慣れているため、ICD-11導入の際には、これらの用語が変更となっていることの周知が必要であると考えられる。また、心室中隔欠損症のようにICD-11にはICD-10の傷病名よりも詳細な傷病名が存在しており、わが国として使用する傷病名の検討も必要であると考えられる。

ICDのわが国での活用には日本語化の作業が必須であり、今般のICD-11への改訂のみならずICD改訂の度に翻訳作業が必要となる。そのため、ある程度定型化できる部分は定型化することで、今後の日本語化の作業を円滑に実施できるものと考えられる。

ICDに収載された各項目の翻訳には、わが国で用いられている医学用語との整合性を取る必要があり、今回の翻訳作業では、日本医学会医学用語辞典やICD-10日本語版などを用いたほか、関連学会に日本語訳案の作成を依頼するなど、多角的な視点から日本語訳の作成を実施した。今回の翻訳作業により、ICD-11の収載項目によっては各学会で利用されている用語や翻訳のあり方が異なっていることが明らかになった。そのため代表的な日本語訳を決定し、また臨床などで使用されている

用語についても検索・利用できるようにすることが、実用化に向けた課題であることが明らかになった。

さらに、わが国の臨床では、一般財団法人医療情報システム開発センター（MEDIS）による「標準病名マスター」が幅広く利用されている。今後、ICD-11 日本語版とこの標準病名マスターとの連携が必要になると考えられる。

E. 結論

本研究は、ICD-11 翻訳作業の取りまとめを実施し、また翻訳作業に参加してその課題を明らかにした。さらに、わが国へ導入予定の ICD-11 の活用に向けた翻訳のあり方について検討を行った。本研究により、ICD-11 翻訳作業を可視化し、また定型化できる部分を定型化したことで、今後の ICD の翻訳作業に大きく貢献できたと考えられる。また、本研究として翻訳作業に参加したほか、翻訳作業の内容を詳細に分析したことで、今回のみならず今後の翻訳作業への貢献できたと考えられる。

本研究の実施にあたり、以下の方々に研究協力者として翻訳作業をご担当いただいた（順不同、敬称略）。ここに深謝の意を表す。

- 国際医療福祉大学医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科 高橋幸恵
- 国際医療福祉大学医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科 坂本幸平
- 東北大学大学院医学系研究科・医学部公共健康医学講座医療管理学分野 桜澤邦男
- 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 飯塚理子
- 奈良県立医科大学公衆衛生学講座 菅野沙帆

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 滝澤雅美・小川俊夫・今井健ら. ICD-11 における分類体系に関する一考察. 医療情報学 39 (Nov.) :272-275.2019

2. 学会発表

- 1) 滝澤雅美・小川俊夫・今井健ら. ICD-11 における分類体系に関する一考察. 第 39 回医療情報学連合大会. 幕張メッセ. 千葉県幕張市. 2019.11.22.

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

<参考資料1> ICD-11 新規翻訳案（第一章の一部事例）

no.	ICD-11章	原用語名	翻訳候補
1	1	infection unknown	詳細不明の感染症
2	1	infection process NOS	感染経路 NOS
3	1	Bacterial enteritis NOS	細菌性腸炎 NOS
4	1	food infection	食物感染
5	1	asiatic cholera	アジアコレラ
6	1	epidemic cholera	流行性コレラ
7	1	Enteritis due to cholera due to Vibrio cholerae, non-O1 strains	コレラ菌によるコレラによる腸炎、非 O1
8	1	Cholera due to Vibrio cholerae O1, biovar cholerae	コレラ菌 O1 によるコレラ、コレラ菌
9	1	Enteritis due to Cholera due to Vibrio cholerae O1, biovar cholerae	コレラ菌 O1 によるコレラによる腸炎、コレラ菌
10	1	Cholera due to Vibrio cholerae O1, biovar eltor	コレラ菌 O1 によるコレラ、エルトール型コレラ菌
11	1	Enteritis due to cholera due to Vibrio cholerae O1, biovar eltor	コレラ菌 O1 によるコレラによる腸炎、エルトール型コレラ菌
12	1	enteric fever NOS	腸チフス NOS
13	1	Pneumonia due to typhoid fever	チフスによる肺炎
14	1	salmonella poisoning	サルモネラ中毒
15	1	Salmonella arthritis	サルモネラ関節炎
16	1	Salmonella meningitis	サルモネラ髄膜炎
17	1	Salmonella osteomyelitis	サルモネラ骨髄炎
18	1	Renal tubulo-interstitial disorders due to salmonella infection	サルモネラ感染症による腎尿細管間質性障害
19	1	Salmonella pneumonia	サルモネラ肺炎
20	1	Pneumonia due to salmonella infection	サルモネラ感染症による肺炎
21	1	bacillary colitis	細菌性大腸炎
22	1	shigella enteritis	赤痢腸炎
23	1	Escherichia coli enteritis, not otherwise specified	エシェリキア属大腸菌性腸炎、他に記載のないもの
24	1	necrotizing enterocolitis due to clostridium difficile infection	クロストリジウムディフィシル感染症による壊死性腸炎
25	1	foodborne clostridium difficile infection	食物由来のクロストリジウムディフィシル感染症
26	1	food contamination	食物汚染
27	1	bacterial ichthyotoxism	細菌性魚中毒
28	1	bacterial fish poisoning	細菌性魚中毒
29	1	epidemic bacterial fish poisoning	伝染性細菌性魚中毒
30	1	bacterial mussels poisoning	細菌性ムラサキガイ中毒
31	1	bacterial seafood poisoning	細菌性海産食品中毒
32	1	bacterial shellfish poisoning	細菌性甲殻類中毒
33	1	Foodborne Vibrio parahaemolyticus intoxication	腸炎ビブリオ食中毒
34	1	acute infectious viral gastroenteritis	急性ウイルス性胃腸炎
35	1	infantile gastroenteritis virus	乳児ウイルス性胃腸炎
36	1	infantile viral gastroenteritis	乳児ウイルス性胃腸炎
37	1	viral diarrhea	ウイルス性下痢症
38	1	viral diarrhoea	ウイルス性下痢症
39	1	viral dysentery	ウイルス性赤痢

40	1	viral gastroenteritis	ウイルス性胃腸炎
41	1	Viral enteritis NOS	ウイルス性腸炎 NOS
42	1	Viral gastroenteritis NOS	ウイルス性胃腸炎 NOS
43	1	Viral gastroenteropathy NOS	ウイルス性胃腸症 NOS
44	1	Gastroenteritis due to Cytomegalovirus	サイトメガロウイルスによる胃腸炎
45	1	Enteritis due to coxsackievirus	コクサッキーウイルスによる腸炎
46	1	ameba	アメーバ症
47	1	amebiasis	アメーバ症
48	1	amebiasis, unspecified	アメーバ症、詳細不明
49	1	amebiasis nos	アメーバ症 NOS
50	1	amebic infection	アメーバ感染症
51	1	amoebic infection	アメーバ感染症
52	1	amoebosis	アメーバ症
53	1	disease due to endamoebidae	エントアメーバ属による疾患
54	1	entamoebiasis.	赤痢アメーバ症
55	1	acute nondysenteric amebic enteritis	急性非赤痢性アメーバ腸炎
56	1	amebiasis nondysenteric colitis	非赤痢性アメーバ大腸炎
57	1	nondysenteric amebic diarrhea	非赤痢性アメーバ性下痢
58	1	Chilomastigiasis	メニール鞭毛虫症
59	1	chilomastix diarrhea	鞭毛虫性下痢
60	1	chilomastix dysentery	原虫性赤痢
61	1	infection by chilomastix	メニール鞭毛虫による感染症
62	1	Dientamoeba dysentery	二核アメーバ赤痢
63	1	dientameba diarrhea	二核アメーバ下痢
64	1	dientameba dysentery	二核アメーバ赤痢
65	1	dientamoeba diarrhea	二核アメーバ下痢
66	1	Embadomoniasis	エンバドモナス症
67	1	embadomonas dystentery	エンバドモナス赤痢
68	1	Retortamoniasis	レトルタモナス症
69	1	retortamoniasis infection	レトルタモナス感染症
70	1	infected colitis	感染性大腸炎
71	1	infected enteritis	感染性腸炎
72	1	acute bloody diarrhoea	急性血性下痢
73	1	acute haemorrhagic diarrhoea	急性出血性下痢
74	1	acute watery diarrhoea	急性水様性下痢
75	1	dysenteric diarrhoea	赤痢様下痢
76	1	enteric or intestinal catarrh	腸又は腸カタル
77	1	epidemic diarrhoea	伝染性下痢症
78	1	haemorrhagic gastroenteritis	出血性胃腸炎
79	1	intestinal infections without specification of infectious agent	感染源の記載がない腸管感染症
80	1	Colon inflammation	結腸炎
81	1	inflammation of colon	結腸炎

82	1	colonic inflammation	結腸の炎症
83	1	caecal inflammation	盲腸炎
84	1	sigmoid inflammation	S 状結腸炎
85	1	jejunal inflammation	空腸炎
86	1	sexually transmitted infectious disease or disorder	性病又は障害
87	1	venereal disease or disorder	性病又は障害
88	1	disease with a predominantly sexual mode of transmission	主として性的伝播様式をとる疾患
89	1	sexually transmitted infectious disease	性感染症
90	1	std – [sexually transmitted disease]	STD[性感染症]
91	1	vd –[venereal disease]	vd[性病]
92	1	statutory venereal disease	法定性病
93	1	luetec disease	梅毒
94	1	syphilis NOS	梅毒 NOS
95	1	congenital syphilis, unspecified	先天梅毒、詳細不明
96	1	hereditary syphilis	遺伝性梅毒
97	1	heredosyphilis	先天性梅毒
98	1	congenital syphilitic heart disease	先天梅毒性心疾患
99	1	Congenital syphilitic aortitis	先天梅毒性大動脈炎
100	1	Congenital syphilitic endarteritis	先天梅毒性動脈内膜炎
101	1	Congenital syphilitic aneurysm	先天梅毒性動脈瘤
102	1	Congenital ruptured syphilitic aneurysm	先天梅毒性破裂性動脈瘤
103	1	Congenital syphilitic aortic aneurysm	先天梅毒性大動脈瘤
104	1	congenital syphilitic arthritis	先天梅毒性関節炎
105	1	congenital syphilis with gumma	ゴム腫を伴う先天性梅毒
106	1	congenital gumma	先天梅毒性ゴム腫
107	1	Syphilitic craniotabes	梅毒性頭蓋ろう
108	1	syphilis craniotabes	梅毒性頭蓋ろう
109	1	Syphilitic saddle nose deformity	梅毒性鞍鼻
110	1	saddle nose due to syphilis	梅毒による鞍鼻
111	1	congenital syphilitic nose deformity	先天梅毒性鼻奇形
112	1	syphilis saddle nose	梅毒性鞍鼻
113	1	Hutchinson triad	ハッチンソン三主徴
114	1	Hutchinson teeth or incisors	ハッチンソン歯
115	1	mulberry molars	桑実状臼歯
116	1	Congenital syphilitic leontiasis	先天性梅毒性獅子面症
117	1	Congenital syphilitic sarcocele	先天性梅毒性辜丸瘤腫
118	1	Congenital syphilitic palatine vault perforation	先天性梅毒性口蓋穿孔
119	1	Congenital syphilitic stigmata	先天性梅毒
120	1	syphilis causing death under 2 years of age, stated to be acquired	2歳以下の死因となった梅毒、後天性
121	1	early syphilis, unspecified	早期梅毒、詳細不明
122	1	acquired syphilis	後天梅毒
123	1	conjugal syphilitis	夫婦間の梅毒

124	1	Infection due to Treponema pallidum NOS	梅毒による感染 NOS
125	1	acquired syphilis NOS	後天梅毒 NOS
126	1	organic syphilis	梅毒
127	1	general syphilis	梅毒
128	1	venereal inguinal bubo	梅毒性鼠径部横痃
129	1	late syphilis, unspecified	晩期梅毒、詳細不明
130	1	late tertiary syphilis	晩期または第3期梅毒
131	1	syphilitica deformans arthritis	梅毒性変形性関節炎
132	1	syphilitic cardiopathy	梅毒性心疾患
133	1	syphilitic hydropericarditis	梅毒性心膜炎
134	1	syphilitic hydropneumopericarditis	梅毒性気腫性心膜炎
135	1	Late syphilitic synovitis	晩期梅毒滑膜炎
136	1	pulmonary syphilis	肺の梅毒
137	1	Syphilitic ascites	梅毒性腹水
138	1	Syphilitic breast	胸部梅毒
139	1	syphilis of breast	胸部の梅毒
140	1	Syphilitic leontiasis	梅毒性獅子面症
141	1	Syphilitic placenta	胎盤梅毒
142	1	Syphilis of adrenal gland	副腎の梅毒
143	1	Syphilis of liver	肝臓の梅毒
144	1	Hepatitis in late syphilis	晩期梅毒における肝炎
145	1	syphilitic hepatitis	梅毒性肝炎
146	1	quaternary syphilitic hepatitis	第4期梅毒性肝炎
147	1	hepar lobatum	分葉肝
148	1	Syphilitic cirrhosis	梅毒性肝硬変
149	1	Syphilis of pituitary gland	脳下垂体の梅毒
150	1	Visceral syphilis	臓器梅毒
151	1	Urogenital syphilis	尿路生殖器の梅毒
152	1	Syphilis of abdomen	腹部の梅毒
153	1	Syphilitic splenomegaly	梅毒性脾腫
154	1	Syphilitic peritonitis	梅毒性腹膜炎
155	1	Late syphilitic peritonitis	晩期梅毒性腹膜炎
156	1	blennorrhoea	膿漏眼
157	1	chronic gonorrhoea	慢性淋病
158	1	chronic gonorrhoea	慢性淋病
159	1	Pneumonia due to gonorrhoea	淋病による肺炎
160	1	meningitis due to gonococcus	淋菌による髄膜炎
161	1	disease due to trichomonadidae	トリコモナス症
162	1	infection by trichomonas	トリコモナス症
163	1	trichomonadosis	トリコモナス症
164	1	trichomonas infection	トリコモナス感染症
165	1	trichomonas pruritus	トリコモナス皮膚掻痒症

<参考資料2> ICD-11 翻訳作業に用いた定型訳（英語 → 日本語）

NO.	区分	原文用語	日本語訳
1	表記	XX - [XXX]	XX[XXX]
2	表記	数字	原則として半角。ひとまずローマ数字（I～X）は全角、十一以上は、外字のため英語のとおり半角のエックスとアイで表現した。すべて半角とするか等追って整理する。適切な場合は、訳語として、アラビア数字に置き換えることも検討。
3	表記	カンマ(,)	,
4	表記	ハイフン	-(全角) あるいは (英語等の中で使用される場合) - (半角)
5	分類1	unspecified XX	詳細不明の
6	分類1	, unspecified	、詳細不明
7	分類1	certain	特定の
8	分類1	certain specified	特定の明示された
9	分類1	other	その他の
10	分類1	other specified	その他の明示された あるいは (その)他(の)特定の あるいは その他の具体的な
11	分類1	XX, not elsewhere classified	XX、他に分類されないもの
12	分類1	XX NOS	XXNOS
13	分類1	, not otherwise specified	、他に記載のないもの
14	分類1	XX not otherwise specified	他に記載のない XX
15	分類1	miscellaneous	種々の あるいは (ICD-O 関係では、)その他の
16	分類1	specified type(s)	型が明示されたもの あるいは (型/タイプの記載あり)
17	分類1	without mention of	の記載のない あるいは が明示されない(もの)
18	分類1	site not specified	部位が明示されないもの
19	分類1	unspecified site/site unspecified	部位不明 あるいは (unknownと使い分ける場合等) 部位詳細不明/詳細不明の部位
20	分類1	in diseases classified elsewhere	他に分類される疾患における
21	分類1	without further specification/not further specified	(で)より詳細な記載のないもの
22	医学一般3	strangulation	絞頸(外因の場合、絞首) あるいは 絞扼 あるいは 嵌頓
23	関係性1	and	及び
24	関係性1	or	又は
25	関係性1	and/or	及び/又は
26	関係性1	whether A or B	A 又は B の別
27	関係性1	without (mention of) A or B	A 及び B を伴わない(の記載のない)
28	関係性1	XX, YY and/or ZZ	XX, YY 及び/又は ZZ
29	関係性1	due to XX	XXによる
30	関係性1	by	<訳さない> あるいは による
31	関係性1	XX caused by YY	YYによる XX
32	関係性1	XX causing YY	XXによる YY
33	関係性1	attributable to XX	XXに起因する
34	関係性1	XX of (non)infectious origin	感染症に起因する/しない XX
35	関係性1	in XX	XXにおける あるいは (腫瘍では)XX内
36	関係性1	with XX	XXを伴う あるいは XXに伴う
37	関係性1	associated with XX	XXを伴う あるいは XXに伴う あるいは (Qコードでは、)に関する
38	関係性1	in association with XX	XXに伴う

39	関係性1	with or without XX	XXを伴うもの又は伴わないもの あるいは XXの有無にかかわらず
40	関係性1	or related XX	又は関連◎◎
41	関係性1	involving	に影響を及ぼす あるいは の併発のある あるいは に関する あるいは に及ぶ あるいは に至る
42	関係性1	XX involvement	XX(の)併発症 あるいは 併発
43	関係性1	affecting	を害する あるいは に影響する あるいは に影響を及ぼす あるいは 所見のある あるいは (医薬品等の場合)作用する
44	関係性1	resulting from XX	XXの結果生じる あるいは XXに起因する
45	関係性1	XX resulting in YY	YYを起こしたXX
46	関係性1	provoked by XX	XXによって引き起こされる
47	関係性1	related	関連 あるいは 関連する
48	関係性1	concerning	に関する
49	関係性1	XX associated YY	XX 関連 YY あるいは XX 随伴 YY
50	関係性1	except	を除く あるいは 以外の
51	関係性2	essential	本態性
52	関係性2	primary	一次性 あるいは 原発性
53	関係性2	secondary	二次性 あるいは 続発性
54	関係性2	XX secondary to YY	YYに続発するXX あるいは YYに伴う二次性XX
55	関係性2	late effect	後遺症
56	関係性2	sequelae	続発症
57	関係性2	metastasis in/to XX	XXへの転移
58	関係性2	following	後の
59	一般1	predominantly	主に あるいは 主として
60	一般1	primarily	主として あるいは 主に
61	一般1	as a major feature	主な特徴として
62	一般1	(in part)	(一部)
63	人生期1	infant/infancy	乳児(期) あるいは (病態により乳幼児を含む場合) 乳幼児 あるいは 小児
64	人生期1	infantile	乳児 あるいは 小児
65	人生期1	infantilism	幼稚症
66	人生期1	neonate/neonatal/newborn	新生児(期)
67	人生期1	child(hood)/paediatric	小児(期)
68	人生期1	school-aged children	学童(期)
69	人生期1	young child	若年小児
70	人生期1	adolescence/adolescent	青年(期)
71	人生期1	juvenile	若年性
72	人生期1	adult	成人
73	人生期1	aged men	高齢男性
74	医学一般1	disease(s) of XX	XXの疾患 あるいは XX疾患
75	医学一般1	XX disease	XX疾患 あるいは XX病 あるいは XX症 (寄生虫症、胃食道逆流症、心臓弁膜症等)
76	医学一般1	disorder(s) of XX	XXの障害 あるいは XX障害
77	医学一般1	disturbance	異常 あるいは 障害
78	医学一般1	condition	病態
79	医学一般1	dysfunction	機能障害 あるいは 機能不全
80	感染症1	科、属、種(病原体名)の区別	エクステンションコードの構造を参考に、その他のXXなど複数の菌を包括して使用されている場合は、科又は属とした。

81	感染症1	viral disease	個別疾患の場合は、XX ウイルス病。包括的な使用の場合は、ウイルス性疾患とした。
82	消化器1	colitis	大腸炎 あるいは 結腸炎
83	消化器1	enteritis	腸炎
84	消化器1	enterocolitis	小腸結腸炎 あるいは 腸炎
85	消化器1	colon	大腸 あるいは 結腸
86	消化器1	colorectal	大腸 あるいは 結腸直腸
87	感染症1	foodborne intoxication/food poisoning	食中毒
88	感染症1	foodborne infection	食物由来感染症
89	新生物1	neoplasms	新生物 あるいは 腫瘍
90	新生物1	malignancy	悪性度 あるいは 悪性腫瘍
91	新生物1	high, low grade	高・低異型度(neoplasia の場合) あるいは 高度・軽度(dysplasia の場合) あるいは 高・低悪性度(癌の場合)
92	新生物1	Neoplasms of uncertain behaviour	性状不詳の新生物
93	新生物1	Neoplasms of unknown behaviour	性状不明の新生物
94	新生物1	(non)neoplastic	(非)腫瘍性
95	新生物1	paraneoplastic	腫瘍随伴性
96	新生物1	cancer/carcinoma	がん/癌
97	新生物1	epithelial/in situ carcinoma	上皮性/上皮内癌
98	新生物1	intraepithelial neoplasia/tumour; carcinoma	上皮内腫瘍/表皮内癌
99	新生物1	lymphomatous	リンパ腫様 あるいは リンパ腫性
100	新生物1	lymphoid	リンパ性
101	新生物1	adenomatous	腺腫様
102	新生物1	granulomatous	肉芽腫性
103	新生物1	xanthomatous	黄色腫性
104	新生物2	invasive/infiltrating(腫瘍)	浸潤(性) あるいは (奇胎の場合)侵入
105	新生物2	overlapping lesion	境界部病巣
106	新生物2	新生物における(形態)of(部位)	(部位)の(形態)
107	新生物2	腫瘍の訳順	「部位の→性状(悪性・良性・境界悪性等)→(形容詞)→形態」又は「性状→部位→(形容詞)→形態」
108	新生物1	goitre/struma	甲状腺腫
109	新生物2	aggressive/progressive(腫瘍)	侵襲性/進行性
110	新生物2	generalized/systemic(腫瘍)	広汎性/全身性
111	医学一般2	postoperative/postsurgical	術後
112	医学一般2	postprocedural	術後 あるいは 処置後
113	医学一般2	postprocedural XX disorder/postprocedural disorders of XX	XX の術後障害
114	医学一般3	stricture	狭窄
115	医学一般3	stenosis	狭窄 あるいは (stricture と訳し分ける場合)狭小
116	医学一般3	constriction	絞扼
117	発達1	congenital abnormality/anomaly	先天異常
118	発達1	agenesis	(より一般的であれば)無形成 あるいは (aplasia と訳しわける際)無発生
119	発達1	developmental anomaly	発達異常
120	発達1	ear anomaly	耳形成異常
121	発達1	heart defect	心奇形
122	発達1	malformation	形成異常
123	発達1	dysgenesis	発生異常 あるいは 形成異常
124	発達1	dysplasia	異形成 あるいは 異形成症
125	発達1	angiodysplasia, myelodysplasia 等	XX 形成異常

126	発達1	aplasia	無形成(症) あるいは 形成不全(症)
127	発達1	hypoplasia	低形成(症)
128	発達1	hyperplasia	過形成(症) あるいは 増殖(症)
129	発達1	enlargement	腫大 あるいは 肥大 あるいは (眼科では)拡大
130	発達1	hypertrophy	肥大 あるいは 肥厚
131	医学一般3	obstruction	閉塞
132	医学一般3	occlusion	閉塞
133	漢字1	頸、頸	頸
134	発達1	familial	家族性
135	発達1	congenital	先天性
136	発達1	genetic/hereditary	遺伝性
137	発達1	mutation	遺伝子変異 あるいは 変異
138	発達1	X-linked	X連鎖性 あるいは (X-linked dominant/recessiveでは)X連鎖優性、X連鎖劣性
139	発達1	Autosomal	常染色体
140	発達1	dominant	優性
141	発達1	recessive	劣性
142	医学一般4	drug-induced	薬物誘発性 あるいは (分類項目名に学会から意見のあった場合)薬剤性
143	医学一般4	medicament-induced	薬剤誘発性 あるいは (分類項目名に学会から意見のあった場合)薬剤性
144	医学一般4	alcohol-induced	アルコール誘発性
145	医学一般4	substance use	物質使用
146	医学一般1	personal history of XX	XXの既往歴
147	医学一般1	family history of XX	家族のXXの既往歴
148	分類2	body region/site	身体部位
149	分類2	multiple body region	多部位
150	分類2	multiple site	多部位
151	分類2	unspecified body region	部位不明
152	分類2	unspecified part	部位不明
153	感染症1	fungal disease	真菌症
154	感染症1	parasitic disease	寄生虫症
155	感染症1	parasitic infection	寄生虫感染症
156	感染症1	infestation	寄生虫症
157	医学一般5	pyogenic/suppurative	化膿性
158	医学一般5	occupationally-acquired/occupational	職業性
159	外因1	assault	加害
160	外因1	intentional self-harm	自傷
161	外因1	injuries to XX	XXへの損傷
162	外因1	injuries of XX	XX損傷
163	外因1	injuries of XX or XX	XX又はXXの損傷
164	外因1	Unintentional exposure to or harmful effects of drugs, medicaments or biological substances	薬物、薬剤又は生物学的製剤への不慮の曝露又はその有害な作用
165	外因1	Intentional self-harm by exposure to or harmful effects of drugs, medicaments or biological substances	薬物、薬剤及び生物学的製剤への曝露又はその有害な作用による故意の自傷
166	外因1	Assault by exposure to or harmful effects of drugs, medicaments or biological substances	薬物、薬剤又は生物学的製剤への曝露又はその有害な作用による加害
167	外因1	Exposure to or harmful effects of undetermined intent of drugs, medicaments or biological substances	薬物、薬剤又は生物学的製剤への曝露又はその有害な作用で不慮か故意か決定されないもの

168	分類2	病態＋部位	間に「の」を入れないのが一般的な場合は、入れない。特段決まった言い回しがない場合、複数の部位が分類名に含まれる場合は、のを入れる。例：脊髄損傷（脊髄の損傷ではなく）。脊髄及び脊柱の損傷。
169	分類2	部位を〇〇部とするか〇〇のみとするか	例：「股関節部」か「股関節」か。事務局案では明確なルールを設けられなかったため、学会の意見を踏まえ要検討
170	分類2	〇〇症	症があってもなくても使用される場合、訳語の主たる病態にあたる場合は、症をつけ、主たる病態が別の場合は、症をつけないことを基本とした。例：「ビタミン B12 欠乏症」、「ビタミン B12 欠乏による貧血」（前者は、欠乏症が主、後者は貧血が主）。なお、第 21 章（症状、徴候、臨床所見の章）における取り扱いは、別途検討。
171	発達1	Structural developmental anomalies of salivary glands or ducts	唾液腺又は唾液管の構造上の先天異常
172	表記	[obs]	[obs]
173	表記	旧名称	XX【旧】
174	内分泌1	iodine	ヨード あるいは ヨウ素 あるいは 放射性ヨード
175	内分泌1	hypersecretion	過剰分泌 あるいは 分泌亢進 あるいは (唾液は) 分泌過多
176	内分泌1	increased secretion	分泌亢進
177	内分泌1	excessive secretion	過剰分泌
178	内分泌1	XX excess	過剰 あるいは 過多
179	内分泌1	abnormal secretion	分泌異常
180	内分泌1	impaired secretion	分泌障害 あるいは 分泌不全
181	内分泌1	inappropriate secretion	不適切分泌
182	内分泌1	hyposcretion	分泌低下(症) あるいは 分泌不全症
183	内分泌1	ACTH secretion	ACTH 分泌 あるいは ACTH 産生
184	内分泌1	XX secretions	分泌物 あるいは 分泌液
185	内分泌1	hyperinsulinaemia/hyperinsulinism	高インスリン血症
186	内分泌1	lipodystrophy	リポジストロフィー
187	内分泌1	osteodystrophy	骨異常栄養症
188	内分泌1	isolated	孤発性 あるいは (欠損の場合は) 単独欠損
189	内分泌1	deficiency	欠損(症) あるいは 欠乏(症)
190	内分泌1	Luteinizing hormone	黄体形成ホルモン
191	内分泌1	lutropin	黄体刺激ホルモン
192	内分泌1	progestogen	黄体ホルモン
193	内分泌1	dwarfism/nanism	低身長症
194	内分泌1	short stature	低身長
195	内分泌1	giantism	高身長症
196	内分泌1	tall stature	高身長
197	内分泌1	resistance	不応(症) あるいは 抵抗性(症)
198	精神1	intellectual deficit	知的障害
199	医学一般3	embolism	塞栓(症)
200	消化器1	cardia	噴門(部)
201	医学一般5	erosive	びらん性
202	医学一般5	eroded	腐食性
203	医学一般5	immunological	免疫学的
204	医学一般5	distension	拡張、膨張など
205	医学一般5	thermal	熱傷性、熱性、温熱性、熱的などさまざま
206	医学一般4	alcohol use/use of alcohol	アルコール使用
207	医学一般4	alcohol induced	アルコール誘発性

208	医学一般4	alcoholic XX	アルコール性
209	医薬品1	NSAID	非ステロイド性抗炎症薬
210	医学一般5	multiple complications	複数の合併症
211	医学一般5	healed/healing	治癒性
212	医学一般5	fissure	裂、裂孔、裂肛など
213	医学一般6	adrenal/suprarenal melanosis	副腎性メラニン沈着症
214	医学一般6	melasma	肝斑
215	医学一般6	adrenal/suprarenal melasma	副腎性黒皮症
216	医学一般7	toxin	毒素
217	医学一般7	poison	毒物
218	医学一般7	toxicity	毒性
219	医学一般7	intoxication	中毒性
220	外因1	cause	原因
221	外因1	external cause	外因
222	医学一般1	dermatoses	皮膚症
223	医学一般1	skin disease	皮膚疾患
224	医学一般1	skin disorder	皮膚障害
225	内分泌1	synthetase/synthase	合成酵素
226	内分泌1	lyase	リアーゼ あるいは 分解酵素
227	内分泌1	dehydrogenase	デヒドロゲナーゼ
228	内分泌1	reductase	還元酵素
229	漢字1	cyst、囊、囊	嚢胞
230	漢字1	vagina、腔、腔	腔
231	医学一般	cellulitis	蜂窩織炎
232	表記	英語を残す場合の文頭の大文字・小文字	一時対応案)文中の英語(例:XX due to sicca syndrome)が、日本語では文頭に来た場合(sicca 症候群によるXX)は、英語の表記のまま文頭は小文字としてください(Sicca 症候群ではなく、sicca 症候群でOK)。(事務局で検討中)
233	医学一般3	narrowing	狭窄 あるいは 狭小化